

第 36 号

あ〜す・れっく

＝日資連界報＝

日本再生資源事業協同組合連合会
〒101-0061 千代田区三崎町 2-21-1
TEL 03 (3263) 9101
発行人 倉 林 喜一郎
編集人 星 本 昭 次
印刷 株式会社資源新報社

自主認定制度発足を宣言 第33回全国大会(福井)を開催

当連合会は六月十二日、福井県若原温泉のグランディア芳泉において、第三十三回日資連全国大会(福井)を開催した。



会長、全国中小企業団体中央会及川勝組織推進部長代理等を招いたほか、今大会のスローガンは「自主認定制度で全国組織の達成を」。

「昨年は、台風被害や中越地震、スマトラでの

地震や津波などの国内外で自然災害が多発、自然の脅威を痛感した。一方、地球規模での環境問題が世界的にも認識された年であった。ひるがえって我が国再生資源の動向を見るに、紙・板紙生産三〇八九万トン、粗鋼生産一億一五〇〇万トンという需要環境の中で再生資源化率は順調に伸び、資源循環の国際化の流れのなかで鉄くず、古紙の輸出は拡大、国内市況にも寄与した。とは言うものの、古紙価格は生かすも殺さずの低価格に低迷しているのが現状。他方、金属系資源は全般に経済価値を高めており、特に鉄鋼、非鉄金属系は大幅な価格改善が進んでいる。日資連では、各地区組織において行政、市民との連携により地域の資源循環型社会の構築にそれぞれ大きく寄与している。本大会は当業界の社会的地位を確立するための自主認定制度発足記念大会と位置づけられている。連合会としては、全国中小企業団体中央会のご支援をおおき、さらに国、地方自治体との関係強化の中で、国の環境政策、廃棄物・リサイクル政策に貢献していきたいと考えている(抜粋)。

来賓の紹介、祝辞に続き、第三十三回通常総会の報告では昨年度の事業報告および新年度の事業計画決定にいたる審議の経過と決定事項が詳細に報告され、各委員会他の活動状況もあわせて報告された。さらに、執行部より自主認定制度の総会での決議が報告され、改めて制度発足が宣言された。

最後に、設置担当県の代表が大会決議文を読み上げ、次期開催地(関東・千葉県)の報告ですべての次第が終了となった。続く、第一部では「最近の古紙事情」をテーマにレンゴー株式会社・高嶋良昭営業本部長の講演が行われた。

福井大会を盛会に終え

福井県再生資源事業協同組合理事長 増田 喜代治

第三十三回日資連全国大会・福井大会(認定制度発足大会)には、全国各地から大勢の代表が参加をいただき、誠にありがとうございました。お蔭様で無事大会を終えることが出来、福井県組合員一同心より御礼申し上げます。

開くところによります。組合として、今回のような大規模の大会経験がないため、手探りの準備で、皆様にどうしたら喜んでいただけるかを考え、お料理には福井県の名産を取り入れ、また、アトラクションには福井で製作しているマリリンパの演奏、そして郷土芸能・勝山左儀長囃し(当組合員も会員)を披露させていただきました。

参加の皆様への反応はますます、はなはだか胸を撫でおろしております。

次年度開催の千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会様の大成功、今回の自主認定制度が各県各地で理解され、資源循環型社会形成に貢献できますよう心から念じて、御礼にさせていただきます。

大会宣言

社会的な環境・リサイクル意識の浸透と新規リサイクル市場の拡大などが我々資源回収業界にとって明るい流れと思われている。しかしながら明らかに光だけでなく異業種の参入や環境保護を目的とした法整備など我々の思いが届いていない現状が垣間見られる。再資源化のプロを自認している我々はリサイクル社会構築の担い手として活躍できる場を見失い、何処へ向かうのか、何が出来たのか先の見えない霧の中に居るようだ。

しかし回収業界の社会的な位置づけや日資連の活動指針、組織拡充の必要性等の問題解決のためにプロジェクトNが結成され、その意欲的な活動により解決の道筋が明らかにされた。我々は今後ともさらに深く連携を強め、また再生資源業界の役割とノウハウを生かしたリサイクル事業を積極的に追求する為にリサイクル化証明書を活用し、本省認可取得に向けた取り組みに邁進して行かねばならない。

今後私たちが日資連の活動が、市民・行政と共に活力に満ちた資源循環型社会を早期に創出することを誓い、大会決議の宣言とする。

平成十七年六月十二日

福井県再生資源事業協同組合



大会宣言を朗読

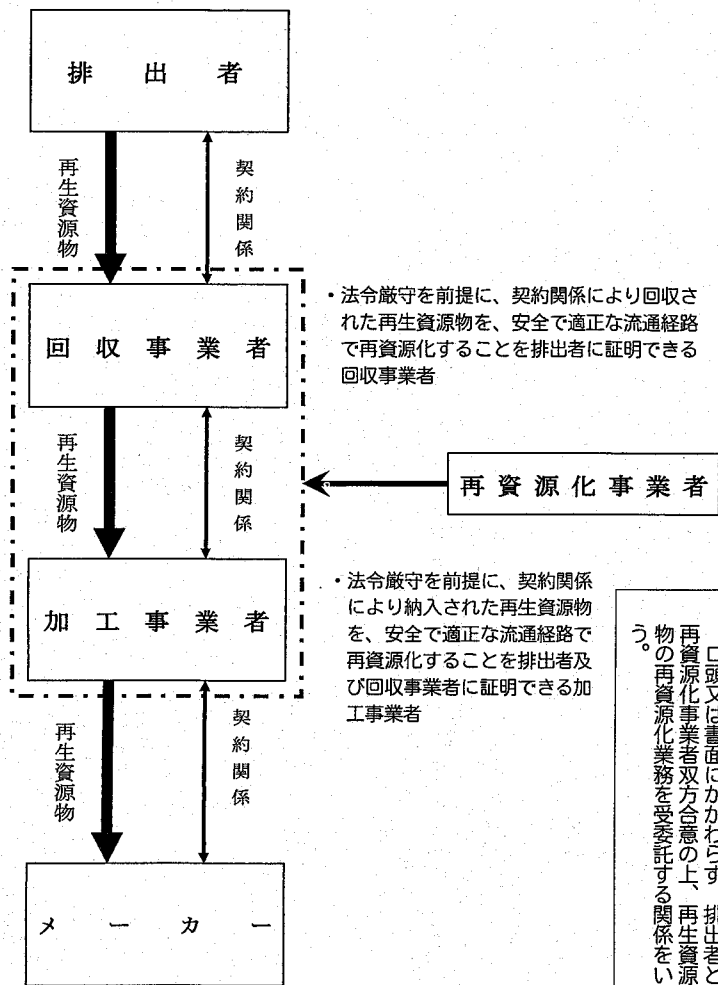
本省認可取得に向け

自主認定制度の進捗状況報告

日資連改革のために設置されたシステムランニング委員会の答申を受け、一昨年十一月十日にプロジェクトが決定。①情報伝達の迅速化の本省認可の取得、②財政健全化の実現をめざし活動を重ねた結果、自主認定制度を創設することがもつとも近道という結論となり、本年一月の理事会で日資連組合員に発表することが議決されました。本省認可の取得に向けては、経済産業省、中小企業庁の指導をいただき、全面的な支援のもと日資連組織改革と加盟促進プログラムの策定を行っており、この一連の流れとして、財政の健全化、さらに再資源化業界の社会的認知を得るための手段として自主認定制度の創設（日資連リサイクル要綱、日資連再生資源回収事業認定制度募集要項参照）に取り組んでまいりました。この制度策定にあたっては、関係省庁や専門家（コンサルタント会社）の指導を受けながら紆余曲折の議論を経ての案であり、仮定の内容が一人歩きし関係各位の誤解を招いたり、ご迷惑の無いよう細心の注意を払ってきたため、現在まで公開していませんでした。つきましては、組合員の皆様にご説明申し上げます。この制度導入ににつきましては、全国中央会の助成事業の準備も進めております。

大量生産・大量廃棄による環境問題は地球規模での対策が必要不可欠な事態にあり、昨今、日本においても「持続可能な資源循環型社会形成」を目標にさまざまな施策が講じられています。資源をもとに製品が作られ、その使用役を終え排出者のもとを離れても、資源はそこにとり、その有効活用が限りある資源の枯渇だけでなく大量廃棄を抑制することになります。

日資連の再生資源物の再資源化のしくみ



・法令厳守を前提に、契約関係により回収された再生資源物を、安全で適正な流通経路で再資源化することを排出者に証明できる回収事業者

・法令厳守を前提に、契約関係により納入された再生資源物を、安全で適正な流通経路で再資源化することを排出者及び回収業者に証明できる加工事業者

一、日資連の再資源化に関する理念
有用な再生資源物を、信頼できる流通経路で適正に再資源化し、「持続可能な資源循環型社会形成」に貢献する。

二、再生資源物の適正な再資源化
日資連の再資源化に関する理念（以下、理念という）に基づき、以下のとおり定義を定める。

(1) 再生資源物の定義
再生資源物とは、経済的価値にかかわらず、再生して利用できる有用物であると定義する。

(2) 適正な再資源化の流通経路の定義
適正な再資源化の流通経路とは、排出者との契約関係のもとで再生資源物を回収し、排出者に信頼性を保障することのできる流通経路で、適正、確実に再資源化することと定義する。

①再資源化事業者とは
回収事業者、加工事業者を問わず、法令遵守のもと、回収した再生資源物を、適正な再資源化の流通経路で確実に再資源化できる事業者をいう。

②契約関係とは
口頭又は書面にかかわらず、排出者と再資源化事業者双方合意の上、再生資源物の再資源化業務を受委託する関係をいう。

平成 17 年 6 月 15 日調査

日資連 モニター集計票

基準は問屋持込販売価格(円/kg)

No.	組合名	H 2 (特級)	発生	鉄干地 (二級)	発生	スチール缶 プレス	発生	スチール缶 バラ	発生	アルミ缶 プレス	発生	アルミ缶 バラ	発生	光特号 (銅)	発生	新聞	発生	雑誌	発生	段ボール	発生	込木口	発生
1	栃木	高値 15.5 安値 14.5	減	高値 5.5 安値 3.5	減	高値 13.0 安値 12.0	減	高値 4.0 安値 4.0	減	高値 110.0 安値 110.0	減	高値 75.0 安値 75.0	減	高値 350.0 安値 350.0	減	高値 8.0 安値 7.0	減	高値 4.5 安値 4.0	減	高値 7.0 安値 6.0	減	高値 0.0 安値 0.0	減
2	東京	高値 16.0 安値 13.0	減	高値 3.0 安値 5.0	増	高値 6.0 安値 3.0	減	高値 3.0 安値 3.0	減	高値 700 安値 600	減	高値 300 安値 200	減	高値 2300 安値 2300	減	高値 3.0 安値 4.0	減	高値 5.0 安値 2.0	減	高値 6.0 安値 3.5	減	高値 4.0 安値 0.0	減
3	神奈川	高値 15.0 安値 15.0	減	高値 4.0 安値 3.0	減	高値 14.0 安値 11.0	減	高値 4.0 安値 3.0	減	高値 1050 安値 1000	減	高値 850 安値 850	減	高値 3500 安値 3300	増	高値 5.0 安値 4.5	減	高値 3.0 安値 2.5	減	高値 4.5 安値 4.0	減	高値 0.5 安値 0.0	減
4	富山	高値 11.0 安値 11.0	減	高値 6.0 安値 6.0	減	高値 10.0 安値 10.0	減	高値 0.0 安値 0.0	減	高値 600 安値 600	減	高値 300 安値 300	減	高値 3100 安値 3100	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 2.0 安値 2.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 0.0 安値 0.0	減
5	岐阜	高値 12.0 安値 12.0	減	高値 5.0 安値 3.0	減	高値 3.0 安値 3.0	増	高値 3.0 安値 3.0	増	高値 1110 安値 1110	増	高値 300 安値 300	増	高値 3150 安値 3000	減	高値 5.0 安値 4.0	減	高値 3.0 安値 2.0	増	高値 6.0 安値 4.0	減	高値 2.0 安値 0.0	減
6	静岡	高値 12.0 安値 10.0	減	高値 5.0 安値 3.0	減	高値 7.0 安値 7.0	減	高値 4.0 安値 0.0	減	高値 1000 安値 900	増	高値 850 安値 400	減	高値 2700 安値 2300	減	高値 5.0 安値 2.0	減	高値 2.0 安値 3.0	減	高値 4.0 安値 3.0	減	高値 1.0 安値 0.0	減
7	奈良	高値 13.0 安値 9.0	減	高値 4.0 安値 0.0	減	高値 7.0 安値 2.0	減	高値 4.0 安値 0.0	減	高値 1000 安値 700	減	高値 850 安値 400	減	高値 2700 安値 2300	減	高値 5.0 安値 2.0	減	高値 2.0 安値 3.0	減	高値 4.0 安値 3.0	減	高値 1.0 安値 0.0	減
8	和歌山	高値 12.0 安値 12.0	減	高値 5.0 安値 6.0	減	高値 10.0 安値 5.0	減	高値 0.0 安値 0.0	減	高値 800 安値 300	減	高値 300 安値 300	減	高値 3150 安値 3000	減	高値 5.0 安値 4.0	減	高値 3.0 安値 2.0	増	高値 6.0 安値 4.0	減	高値 2.0 安値 0.0	減
9	鳥取	高値 12.0 安値 8.0	減	高値 5.0 安値 6.0	減	高値 10.0 安値 5.0	減	高値 0.0 安値 0.0	減	高値 800 安値 300	減	高値 300 安値 300	減	高値 3150 安値 3000	減	高値 5.0 安値 4.0	減	高値 3.0 安値 2.0	増	高値 6.0 安値 4.0	減	高値 2.0 安値 0.0	減
10	岡山	高値 16.0 安値 15.0	減	高値 9.0 安値 8.0	減	高値 12.0 安値 11.0	減	高値 3.0 安値 2.0	減	高値 1000 安値 950	減	高値 700 安値 600	減	高値 3000 安値 2900	減	高値 6.0 安値 4.0	減	高値 4.0 安値 2.0	減	高値 4.0 安値 2.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減
11	熊本	高値 10.5 安値 10.0	減	高値 1.0 安値 1.0	減	高値 13.8 安値 13.3	減	高値 0.0 安値 0.0	減	高値 950 安値 900	減	高値 700 安値 600	減	高値 2600 安値 2500	減	高値 6.5 安値 5.0	減	高値 3.0 安値 3.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減	高値 5.0 安値 5.0	減
平均値		13.7 11.8		4.5 2.4		11.5 8.2		2.4 1.4		93.9 80.6		61.9 50.0		299.4 278.6		5.4 4.6		3.1 2.3		4.9 3.8		0.6 1.4	

第33回通常総会を開催

認定制度実施・確立の年に

日資連では、去る五月十四日(土)、東京・千代田区の東海大学校友会館を会場に、第三十三回通常総会を開催、平成十六年度の事業、決算報告を行うとともに十七年度の事業計画案、予算案を審議した。

平成17年度事業計画基本方針

世界的な省資源、環境保護の流れと東南アジアを中心とする再生資源の流通のグローバル化、他業界からの参入等、我が国の再生資源業界はかつてない変革期を迎えている。平成十七年度は従来にも増して企画・行動力を集結し、組織強化・商権

拡大に転ずる好機である。日資連としては、シス・テムプランニング委員会の最終答申に基づき、プロジェク・トーンを推進母体として、情報伝達の迅速化、①本省認可(原局認可)の取得、②財政の健全化の実現を目指す。具体的には、認定制度の実施・

加盟組合の増加・予算規模の拡大を含めた組織の見直しを行う。ホームページの充実等によって①情報伝達の迅速化の端緒を開いた今、本年度の課題は特に認定制度の開始と確立であり、これにより②本省認可の取得、③財政健全化を達成、業界での発言権を確保し、リサイクル関連法の見直しや制定過程に関与しつつ、経済的な裏付けに支えられた健全な資源循環型社会の構築に貢献したい。以下を今年度の基本方針とする。

一、認定制度の実施・確立・普及
二、意思決定・情報伝達の迅速化の継続
三、加盟団体増と認定制度による財政の健全化
四、本部と各地区組織の整備と連携強化
五、経済性ある資源循環を実現するため再生資源価格の適正化を目指した総合的な市況対策
六、各地区情報網の把握と交換・活用
七、リサイクル化証明書を活用した再生資源物流の実態把握
八、再生資源の用途・市場拡大と古紙・鉄スクラップの輸出拡大
九、モニター制度の推進と活用
十、リサイクル議員懇談会を通じた関係庁庁との

対話の促進
十一、関係諸団体との緊密なる交流と連携
十二、通常総会・全国大会・理事会・運営委員会・執行部会・各委員会の定期的開催



自主認定制度の導入について

◆提案事項

平成17年1月15日の理事会において自主認定制度の導入が決定されました。同制度を広く普及維持発展させるためにはすべての組合員の協力は不可欠であり、当総会において日資連の総意としたい。また、当総会決議の後、日資連福井大会をもって導入実施とする。なお、同制度の概要ならびに留意点は以下のとおりです。また、制度導入に伴ない大幅な日資連組織の見直しも必要となります。

◆自主認定制度の概要

『再資源化に関する理念』を定め、『お客様(排出者)から信頼を得ることのできる再資源化者を認定する』ことで、『持続可能な資源循環型社会の実現』に貢献します。この制度の運営維持管理機関として外部の有識者を委員長とする審査委員会を立ち上げ、制度の公平さをはかり、社会にアピールして行きます。

◆自主認定制度のポイント

1. 日資連再生資源回収事業者認定制度の対象者の条件を満たすことを明らかにする書類の提出。
2. 審査手数料・認定料 15,000 円及び更新手数料 (10,000 円の予定) の支払い。
3. 認定事業者は取引時、排出者へのリサイクル化証明書の説明義務および発行の要否の確認義務。
4. リサイクル化証明書の使用は認定事業者のみとする (平成 18 年 2 月目途)

なお、自主認定制度の詳細につきましては、日資連ホームページをご参照願います。

古紙採取行為阻止運動の経過報告

関東資源回収組合連合会会長 紺野 武郎

関東連が実施した「古紙採取行為に反対する優良古紙問題」の登録お願い運動は、一部六県の理事長・会長連名のもと、一月二十三日の拡大理事会において全会一致で承認された。

お願い書は、二月一日関東地区の古紙問屋各営業所に配布し、古紙採取行為に反対を宣言する頂いた優良問屋を公表する準備を整え、二月の一ヶ月で約六割の問屋に宣言書を返送して頂いた。

しかし、日資連のホームページに開示する段になって関東商組より要望書が届いた。関東連と関東商組で発足した「古紙採取問題対策協議会」の

加盟組合の増加・予算規模の拡大を含めた組織の見直しを行う。ホームページの充実等によって①情報伝達の迅速化の端緒を開いた今、本年度の課題は特に認定制度の開始と確立であり、これにより②本省認可の取得、③財政健全化を達成、業界での発言権を確保し、リサイクル関連法の見直しや制定過程に関与しつつ、経済的な裏付けに支えられた健全な資源循環型社会の構築に貢献したい。以下を今年度の基本方針とする。

一、認定制度の実施・確立・普及
二、意思決定・情報伝達の迅速化の継続
三、加盟団体増と認定制度による財政の健全化
四、本部と各地区組織の整備と連携強化
五、経済性ある資源循環を実現するため再生資源価格の適正化を目指した総合的な市況対策
六、各地区情報網の把握と交換・活用
七、リサイクル化証明書を活用した再生資源物流の実態把握
八、再生資源の用途・市場拡大と古紙・鉄スクラップの輸出拡大
九、モニター制度の推進と活用
十、リサイクル議員懇談会を通じた関係庁庁との

中越大地震義援金の御礼

新潟県連会長 帆苅 直弥

去る四月二十七日(水)、私及び理事・坂上康衛(坂上興産)、監事・西村國一(西村商店)の三名にて、新潟県庁に出向き、土田順一(出納局長)に連合会よりお預かりした全国からの義援金五十二万四千円を手渡して参りました。

同出納局長より、皆様方よりの御厚志に対し厚く御礼を頂くと共に、出金される方々にこの義援金が被災者の方々に届く



土田順一 出納局長に義援金を手渡す

段ボールのリサイクルは次世代の環境作り!!

循環型社会に最適な包装資材として今後ともリサイクルの推進・向上に努めます。

段ボールリサイクル協議会

リサイクルシンボルの普及促進中!!

資料問い合わせは事務局へ
詳細については日本段ボール工業会のホームページ
(<http://www.jcca.gr.jp>)で閲覧できます

東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館
(日本段ボール工業会内)
TEL03-3248-4851 FAX03-5550-2101

青年部総会を開催

日資連新規事業に全面協力

日本再生資源事業協同組合連合会青年部は、平成十七年五月十四日(土)十一時より「総会」を東海大学校友会館(東京都千代田区霞ヶ関ビル三十三階)において開催した。定刻に至り司会の東京の岩澤氏より開会宣言、

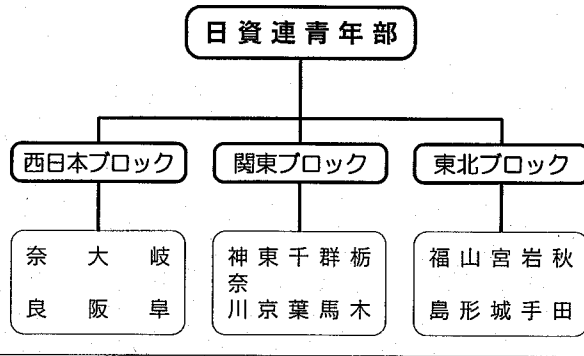
通常総会は定足数を満たしていることにより有効に成立する旨が報告された。松本青年部長より、今年度の日資連は資源業としての社会的立場づけを確立する勝負の年であり、それにはこの業界の将来を担う青年部の役割は大である、引き続きのご協力をお願いしたいとの挨拶のあと、総会議事へと移った。

議長の出選について諮ったところ、満場一致を持って原案どおり可決決定、その他の件では部長会開催日の変更の件で、より召集がかけやすい日にと

の事で今年度から土曜日開催とする、日資連の進める自主認定制度の普及に青年部として全面的に協力するという二点が報告された。

以上をもって通常総会のすべての議案審議を終了、議長は退任した。倉林喜一郎会長にご挨拶をいただき、最後に千葉の齊藤氏が閉会を宣言、定刻に散会となった。

=日資連青年部組織図=



瀧本氏(株)富澤(社長)講師に

古紙ネットが総会・講演会開催

古紙問題市民行動ネットワーク(中村正子代表)は、今年八月、第三十三回の総会を開催した。総会では、中村代表の挨拶に続いて議案審議に入り、平成十六年度の活動報告、決算報告等の審議が滞りなく行われ、全議案とも原案通り可決された。

このうち、新年度の活動計画では、「①古紙の流通ルート把握することとを目的に、会員の相互交流も兼ねて古紙メーカーの見学会を開催することや、②資源の無駄遣いをどう防ぐのか、そもそも発生抑制の点から、アルミラミネート紙パックやカーテンのリサイクルを進めるべきなのか、古紙ネットの立場を明確にしていきたい。」など、具体的な計画も含めて活動の方向性が打ち



総会終了後の学習会(瀧本氏・瀧本氏(手前)と千葉大・倉飯助教授)



二次会には日資連青年部員も多数出席して、お二人の門出を祝福しました。末永くお幸せに！

【編集後記】

今回のあ〜すれっくは日資連自主認定制度、総会、大会と賑やかな紙面になりました。ここで紙面を借りて今回の大会の運営を担当して頂いた福井の皆さんと、増田理事長に大会の盛況をお礼申し上げます。また、広報委員会の皆さんがまあと引き受け頂きありがとうございました。大会の設置にあたり何かと苦労もあったこととは思いますが、懇親会の時の理事長の顔は充実感がみなぎっているようでした。これからもぜひ業界、日資連へのご理解ご協力をお願いします。 星本昭次

神奈川県資源回収商業協同組合

理事長 小松 敏 和

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-40-17
モンテベルデ 横浜 311号室
TEL 045(313)6100・FAX 045(313)6161

奈良県資源回収事業協同組合

理事長 吉田 勝 重

〒635-0021 奈良県大和高田市池尻 82-1
TEL 0745(52)5824・FAX 0745(53)3533

栃木県リサイクル協同組合連合会

会長 谷 中 勝 典

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町 257
TEL 028(652)0245・FAX 028(652)0736

東京都資源回収事業協同組合

理事長 新井 英 一

〒220-0023 東京都千代田区三崎町 2-21-1
TEL 03(3263)3676・FAX 03(3263)3679

大阪府再生資源事業協同組合

理事長 入 江 金 男

〒567-0865 大阪府茨木市横江 2-9-45
TEL 0726(30)6730・FAX 0726(30)6731

告 告 求 求 !

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会

会長 大塚 勝 彦

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-22-6
富士ビル 5階A号室
TEL 043(227)8273・FAX 043(227)2033

岡山再生資源事業協同組合

理事長 佐藤 章 夫

〒700-0026 岡山県岡山市豊成 3-14-20
TEL 086(902)0011・FAX 086(902)0140

埼玉県再生資源事業協同組合

理事長 細田 益 弘

〒338-0826 埼玉県さいたま市桜区大久保領家 343-7
TEL 048(852)9048・FAX 048(852)9075